

第2章 計画の背景

1. 町のすがた

多古町は、千葉県の北東部に位置し、東西約13.6km南北約12.9km、面積は72.80㎢で県内町村の中で2番目の広さです。北西は成田市、北東は香取市、南東は匝瑳市、横芝光町、南西は芝山町に隣接しており、都心へは約70km、千葉市へは42km、成田市へは17kmの距離にあります。

旧多古町は、昭和26年4月に香取郡東條村と合併し多古町となり、昭和29年3月には香取郡久賀村、常磐村、中村と合併し、現在の多古町となりました。

多古町を取り巻く社会状況は、昭和53年に成田空港の開港、昭和57年に東関東自動車道が開通しており、更に令和8年度までには圏央道が開通する予定です。

町中央部を南北に流れる栗山川の流域は、低地で水田地帯が広がり多古米の産地となっています。北部及び東部は、台地が広がり畑地帯を囲むように山林が緩傾斜面となっています。

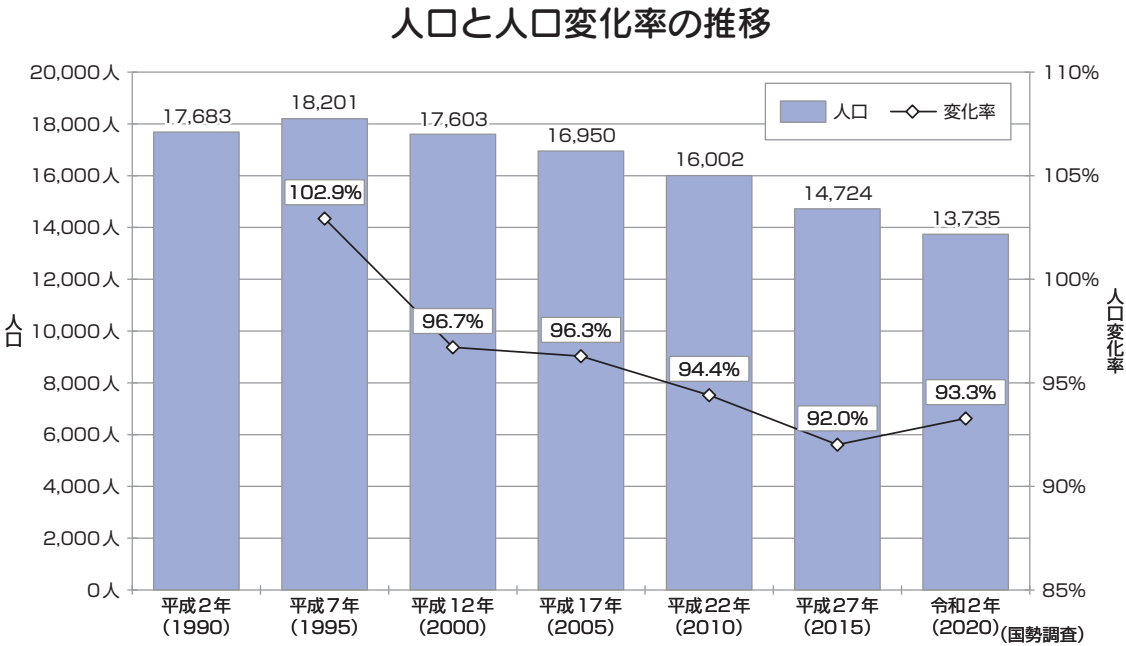
地名の由来の一説として、かつて海底が隆起して陸地となり、多くの湖ができたことから「多湖(多古)」という地名になったともいわれている多古町は、栗山川の豊かな水と田園風景、丘陵地帯の色とりどりの緑によって、自然あふれる美しい町となっています。



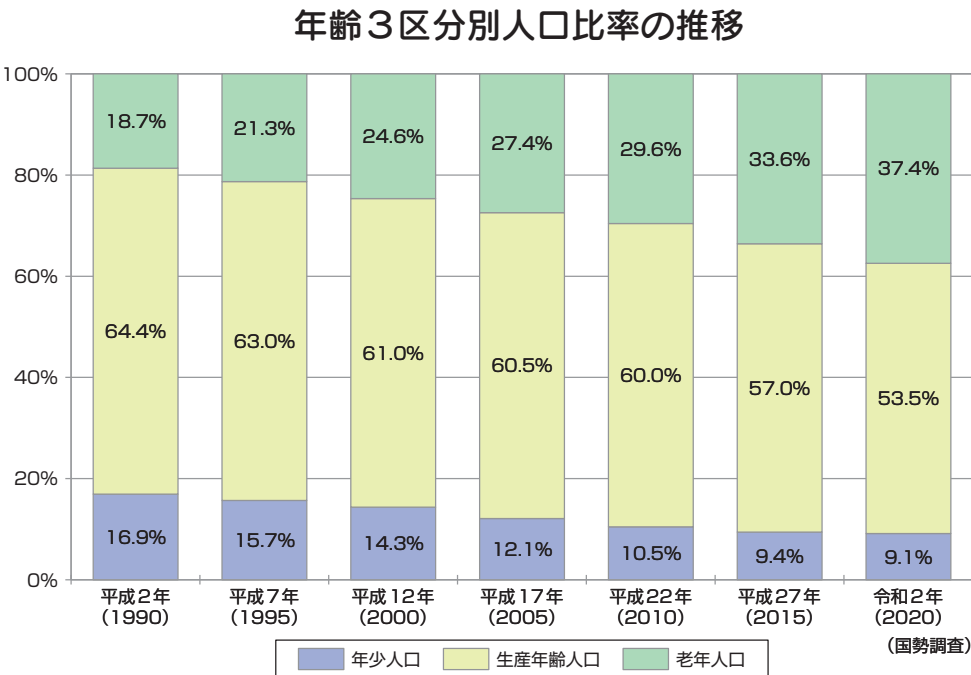
2. 多古町の状況

①人口に関するデータ

人口は、平成7年の18,201人をピークとして、それ以降減少が続いており、令和2年では13,735人となっています。人口変化率^{*}については、平成7年以降減少が続いていましたが、令和2年では増加しており、人口減少傾向が少し回復しています。

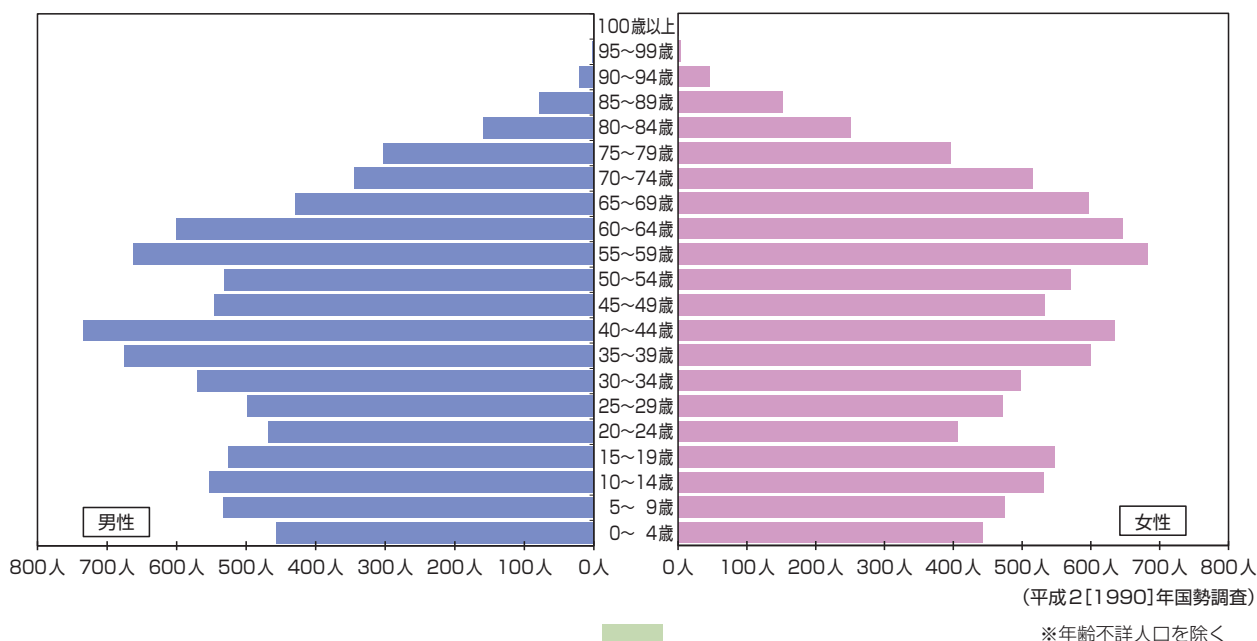


年齢3区分別人口比率をみると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）は平成2年以降減少しているのに対し、老年人口（65歳以上）は増加しています。

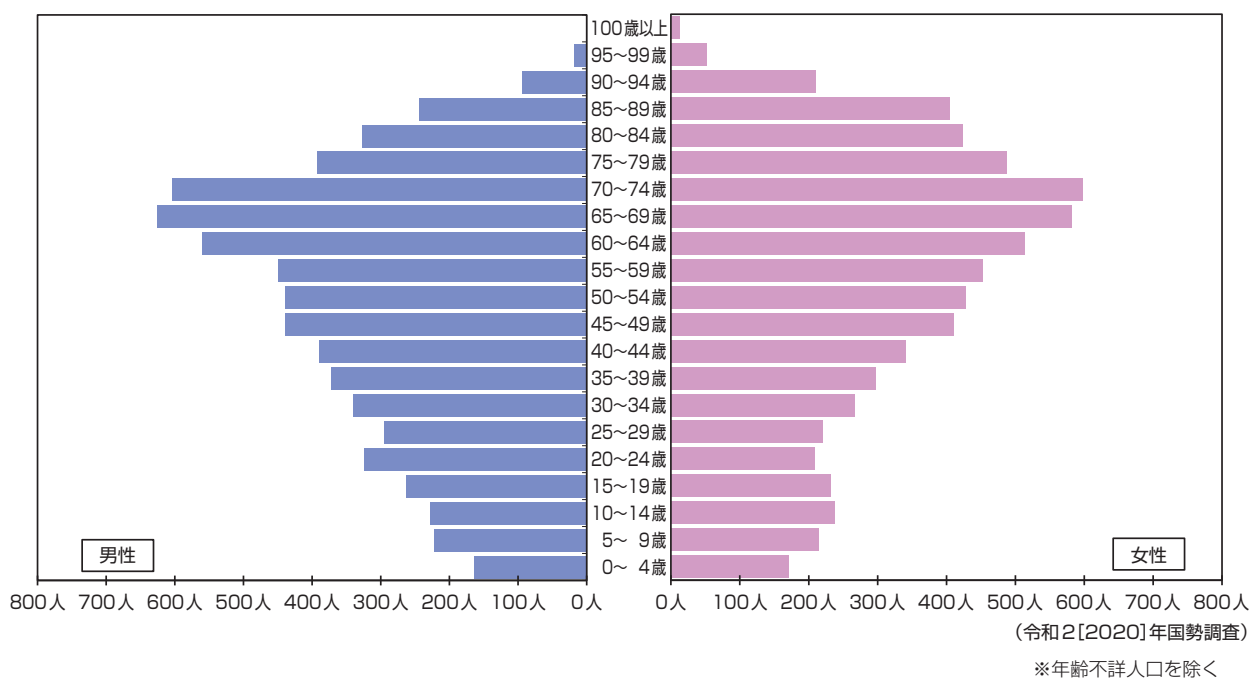


人口ピラミッドをみると、平成2年では40代前半の団塊の世代と10代前半の団塊ジュニア世代が多い飛行機型となっているのに対し、令和2年になると、60代後半～70代前半の団塊の世代と40代後半の団塊ジュニア世代が多い釣鐘型に変化しています。

多古町の5歳階級別人口構造（平成2〔1990〕年）

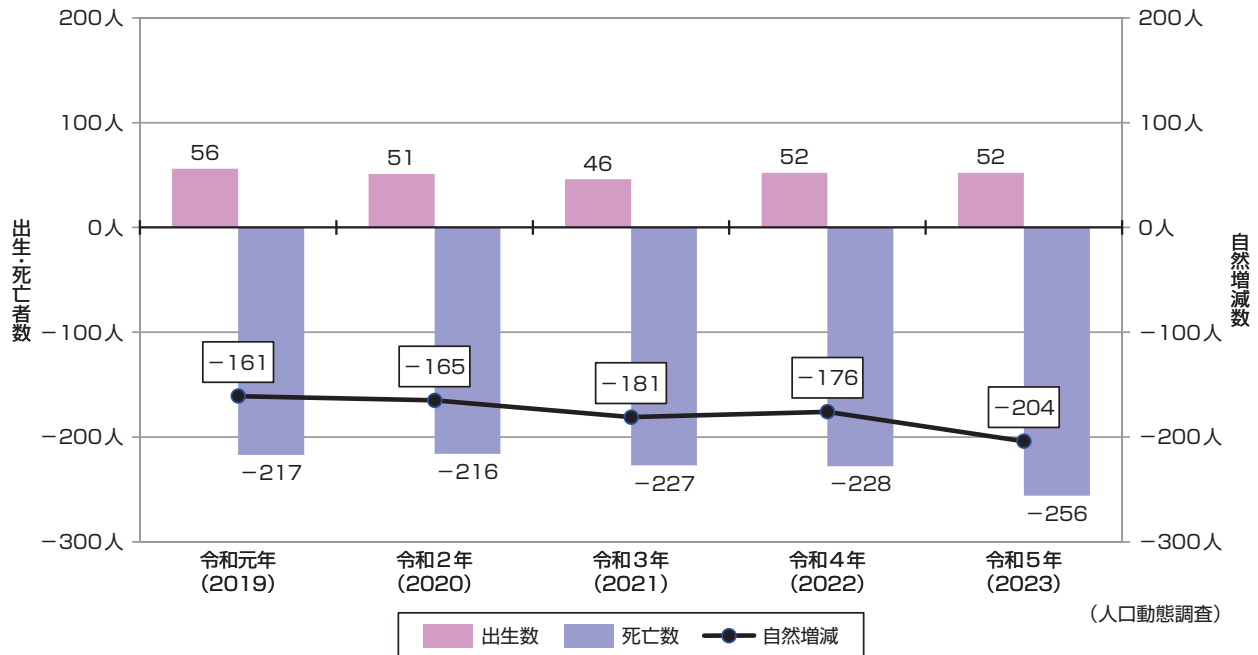


多古町の5歳階級別人口構造（令和2〔2020〕年）



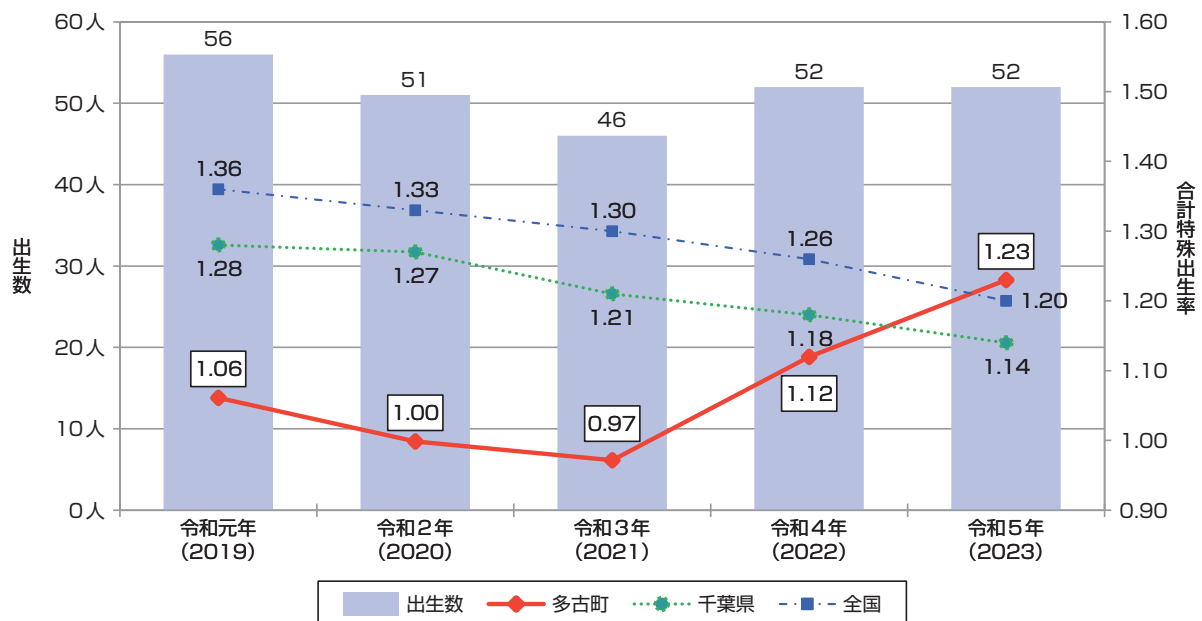
出生・死亡者数についてみると、出生数を死亡者数が上回る自然減の状況が続いています。

出生・死亡者数の推移



合計特殊出生率についてみると、令和3年まで減少していましたが、令和4年以降は増加しており、令和5年度では、全国や千葉県より高くなっています。

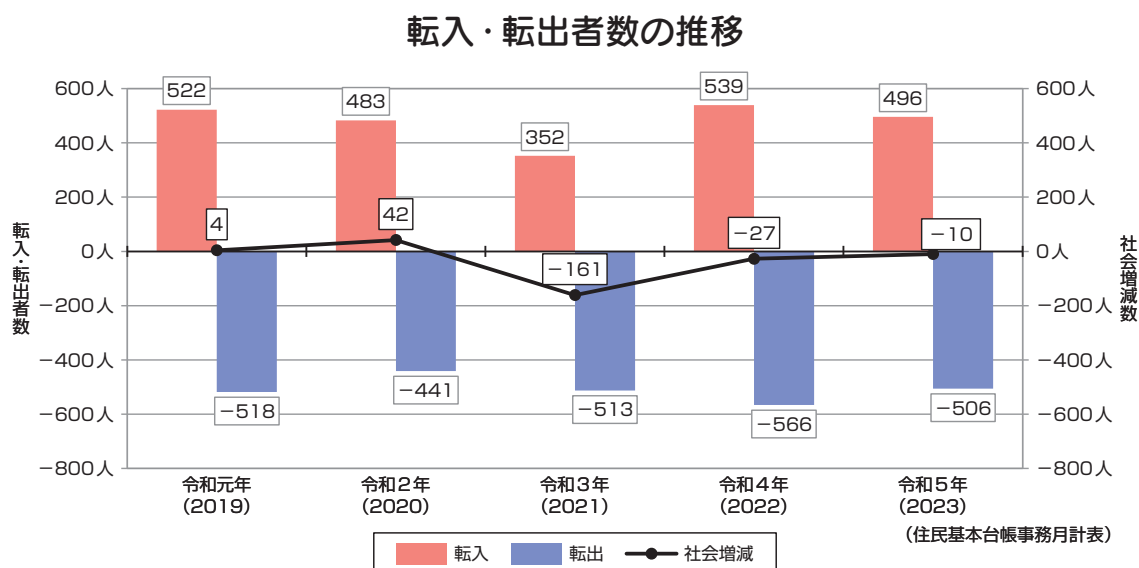
出生数と合計特殊出生率の推移



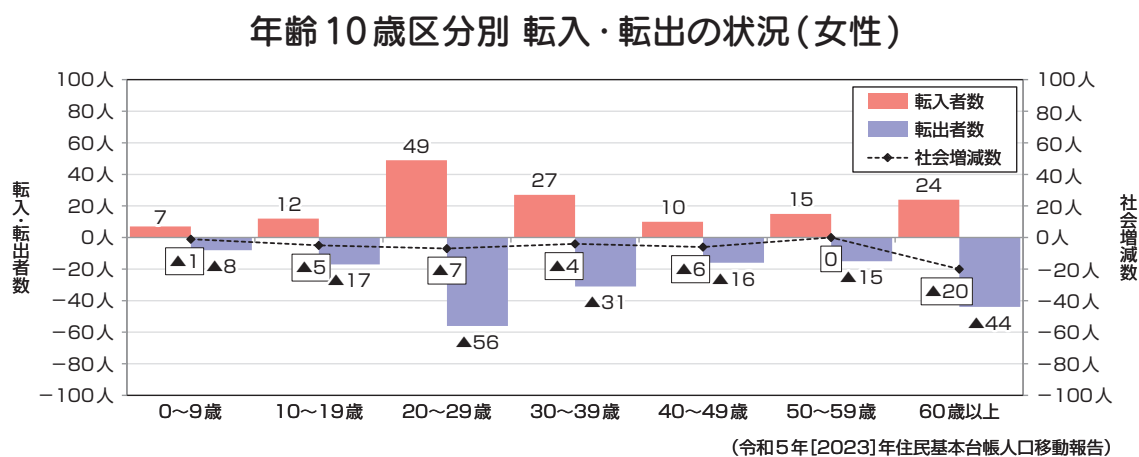
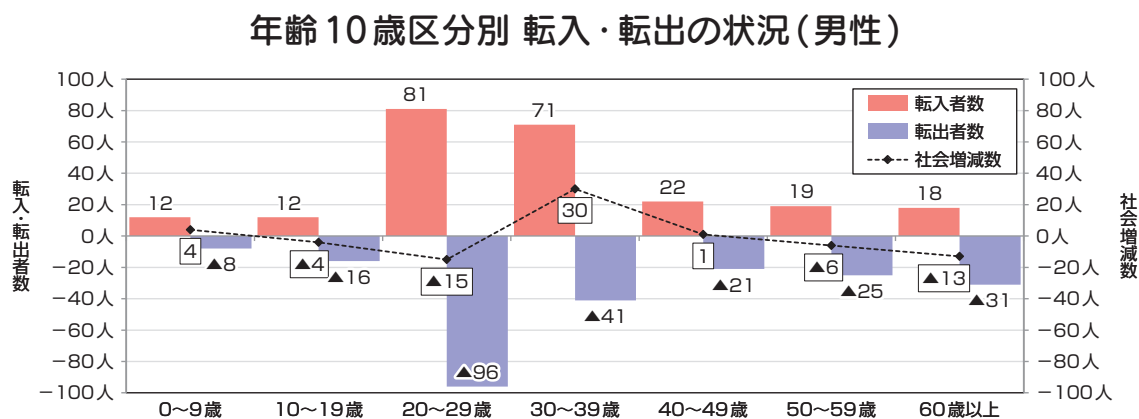
※出生数（人口動態調査）

※合計特殊出生率（全国、千葉県は人口動態調査、多古町は千葉県市町村別5歳階級合計特殊出生率）

転入・転出者数についてみると、転出者数が転入者数を上回る社会減の状況が令和3年以降続いています。



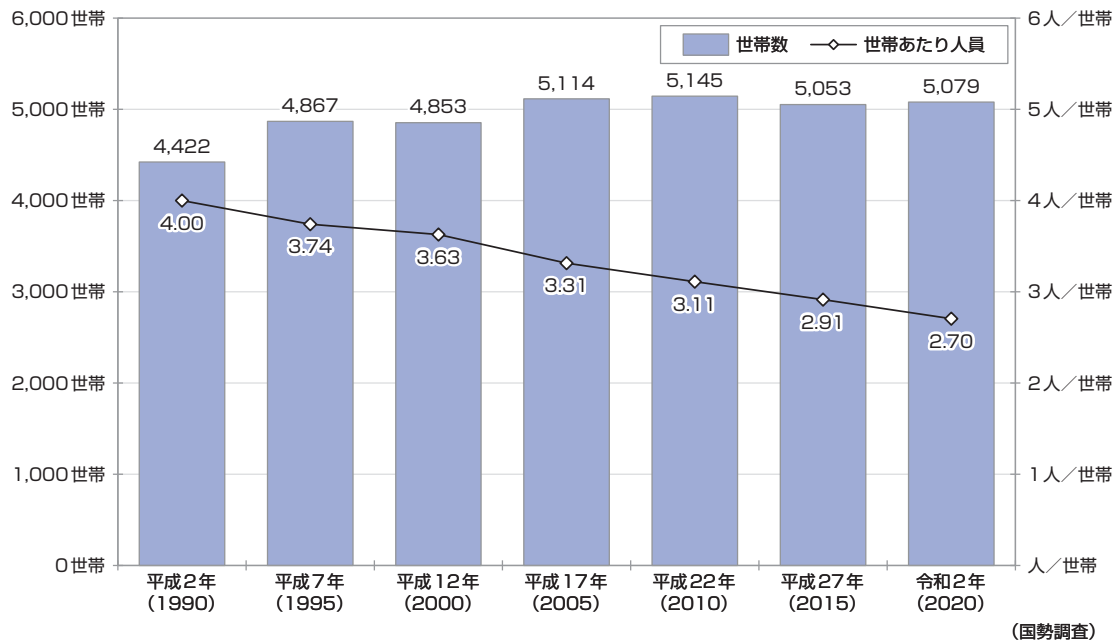
性・年齢別の転入・転出者数についてみると、20～39歳の移動が多く、特に20～29歳の男性で社会増減数のマイナスが大きくなっています。



②世帯数に関するデータ

世帯数は、平成2年以降増減しつつ推移しており、令和2年では5,079世帯となっています。世帯あたりの人員は、平成2年以降一貫して減少し続けています。

世帯数と世帯あたり人員の推移

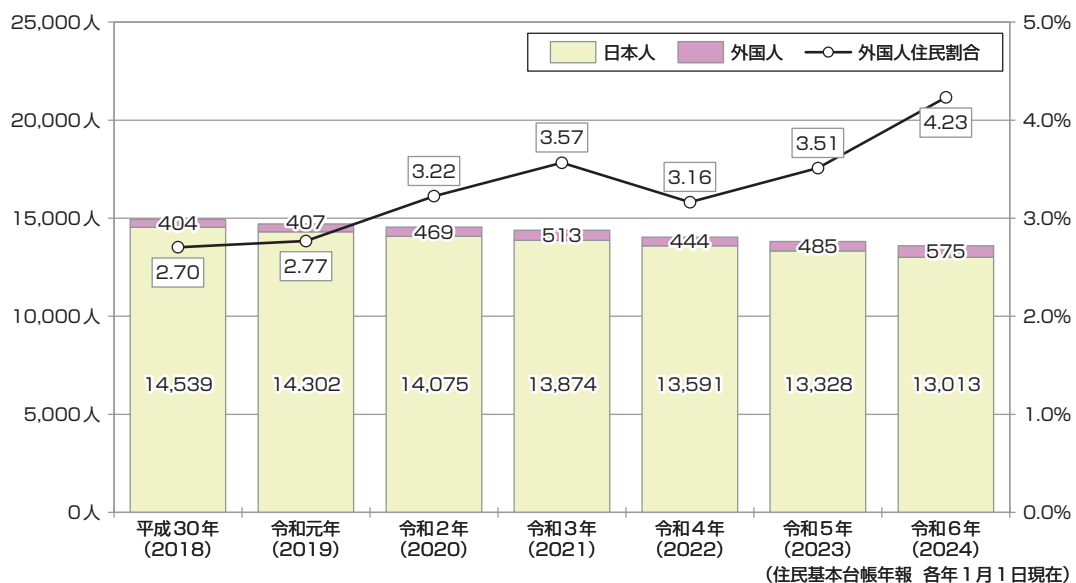


③外国人住民に関するデータ

外国人住民数は、平成30年以降増加傾向が続いていましたが、令和4年に減少に転じ、その後は再度増加傾向となっており、令和6年には575人となっています。

外国人住民割合についても同様に推移し、令和6年では4.23%となっています。

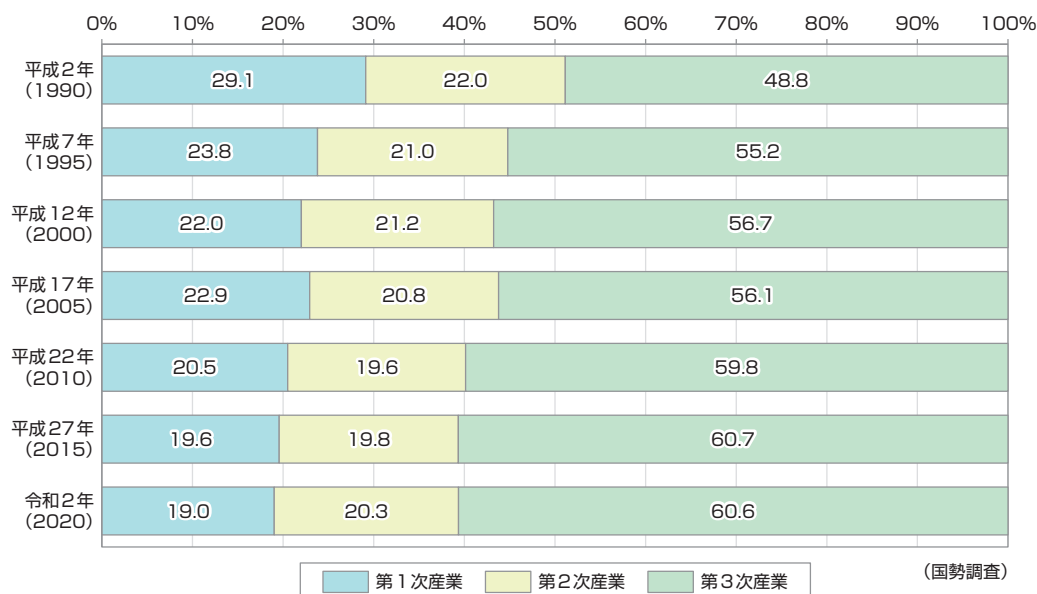
外国人住民の推移



④産業に関するデータ

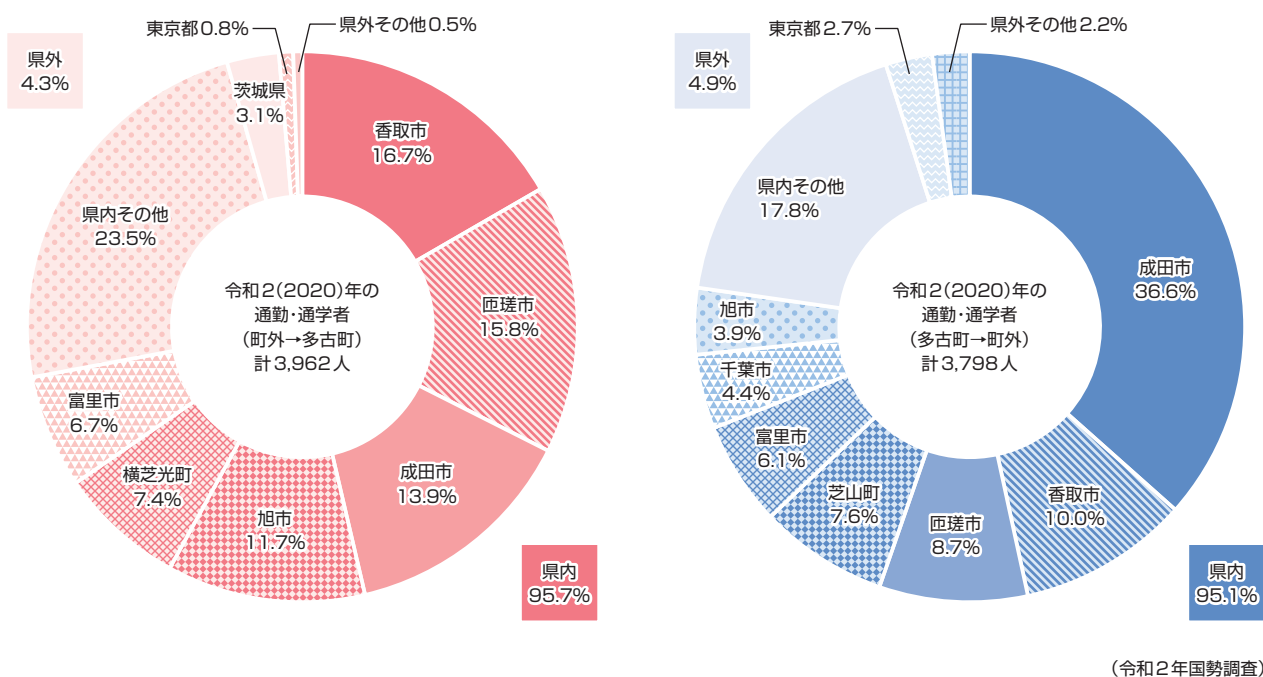
産業3分類別就業者の構成比についてみると、第1次産業の減少がみられます。平成27年から令和2年の変化をみると、第2次産業は増加、第3次産業は横ばいとなっています。

産業3分類別就業者構成比



⑤通勤・通学に関するデータ

町外から多古町への通勤・通学者については、香取市が16.7%、匝瑳市が15.8%と多くなっています。また、多古町から町外への通勤・通学者については、成田市への通勤・通学が36.6%と最も多くなっています。



3. 時代の潮流

◆ 人口減少・少子高齢化の進行

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が、令和5年に行った将来推計人口によると、日本の将来人口は、令和2（2020）年の約1億2,615万人から令和52（2070）年には約8,700万人となっており、50年後は現在の7割弱まで減少するものと推計されています。また、年齢3区分別にみると、50年間で年少人口比率は11.9%から9.2%、老年人口比率は28.6%から38.7%となると予測され、少子高齢化が今後も更に進行することが見込まれています。

このような人口減少・少子高齢化の進行による影響は、経済・社会活動の縮小や停滞、医療や介護等の福祉サービス需要の増加と社会保障費負担の増大、労働力人口の減少による人手不足といった、様々な分野に及ぶことが懸念されます。

子育て支援をはじめとする人口減少・少子高齢化対策を推進していくのと同時に、元気高齢者（自分の技術や経験、知識等を活用して、積極的に社会活動に参画されている65歳以上の方）の活躍推進やデジタル技術等の更なる利用等、人口構造・社会構造の変化に対応した施策の推進を図っていくことが求められます。

◆ デジタル化の進展と第4次産業革命※1

ICTの発達によって、ビッグデータの集約・分析・活用による新たな経済価値が産出されており、AIを活用した単なる情報解析だけでなく複雑な判断を伴う労働やサービスも機械による提供が可能になってきています。また、従来のロボット技術も更に高度な作業が可能となっているほか、3Dプリンターの発展により複雑な製造も可能となっています。更に、テレワークやサテライトオフィス等の取り入れや対応も進んでいる中で、人々の働き方の変革もみられます。

こういった第4次産業革命による飛躍的な発展が世界的に見込まれる中、国内においてもこうした技術を産業や社会活動に取り入れ、生産効率の向上による経済的発展のほか、労働力不足等の社会的課題の解決に向けて進んでいくことが求められます。

◆ 地域での助け合い、共助社会の必要性の増加

制度・分野ごとの縦割りや支え手、受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、町民一人ひとりの暮らしと生きがい、安全・安心な地域をともに作っていく「地域共生社会」の実現に向け、様々な

※1 第4次産業革命：情報をデータ化してネットワークで自由にやり取りする「IoT」、大量のデータを収集・分析して利用する「ビッグデータ」、機械が自ら学習する「AI」、複雑な作業も自動化を可能にする「ロボット」等を活用した技術革新のこと。

取組が進められてきています。

しかし、地域における近所づきあいの減少や自治会など共同体機能の低下は続いており、今後もより一層の共助意識の醸成に向けて取り組んでいくことが求められます。

少子高齢化の進行、孤立死やひきこもりなどの社会的孤立、病気や貧困、虐待、ヤングケアラーなど、複合的で多様な課題を抱える方を、行政と町民の協働によって支えていくことが重要です。

◆ 安全・安心の確保、防災・防犯への関心の高まり

気候変動の影響による大型台風や集中豪雨による被害や、南海トラフ地震等の巨大地震への懸念といった自然災害に対する不安の高まりに加え、子どもや高齢者を狙った犯罪やインターネット・SNSによる被害、多くの方を巻き込む交通事故など、身の回りで発生する事件や事故への対応・対処が重要視されており、安全・安心に対する関心が高まっています。

また、新型コロナウイルス感染症による影響は、生命だけでなく、社会的・経済的影響も大きく、グローバル化の更なる進行により、感染症のリスクは今後も予想されます。

防災・防犯対策の拡充、被害を最小限にするための迅速な対応等、地域でこれからも安全・安心に暮らしていくためのまちづくりが求められます。

◆ 脱炭素、持続可能なまちづくりの推進

深刻化する気候変動や経済格差等の世界的課題の根本的な解決に向けた持続可能な開発目標であるSDGsに沿った取組が進められています。

また、地球温暖化対策に向け、「パリ協定」のもと、温室効果ガスの排出削減を目指した脱炭素の取組が世界で行われています。我が国においても「2050年までに温室効果ガスの排出を実質的にゼロにするカーボンニュートラルを実現する」宣言がなされ、再生可能エネルギーの利用、ごみの削減や再利用の促進、省エネルギーといった環境負荷軽減に向けた取組を進めています。

持続可能な社会の実現に向けて、今後もより一層の循環型社会の構築、自然との共生などの取組の推進が求められます。

◆ 地方分権の進展と行財政基盤の確立

地方分権の進展により、自治体の果たす役割と責任の範囲が拡大しています。しかし、地域住民のニーズの多様化や、人口減少による税収の減少といった課題もみられ、税収の増加につながる地域産業の活性化や雇用創出の取組、事業の選択と集中による効率的・効果的な行財政改革・運営が求められます。また、単独では難しい施策などは、近隣の市町村との連携による「広域連携」の取組も求められます。

今後も、町民ニーズに合った施策の推進に向けた、効率的・効果的なまちづくりの推進が重要です。

4. SDGs (Sustainable Development Goals) との関連

SDGsとは、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に取り組むための「持続可能な開発目標」のことで、平成27年に国連において採択された「誰一人取り残されない」社会の実現に向けた17の目標を指します。

本計画では、政策とSDGsの関連づけを行い、SDGsを持続可能なまちづくりに向けて活用します。

1 貧困をなくそう 	1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	10 人や国の不平等をなくそう 	10. 人や国の不平等をなくそう 国内および国家間の格差を是正する
2 飢餓をゼロに 	2. 飢餓をゼロに 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する	11 住み続けられるまちづくりを 	11. 住み続けられるまちづくりを 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする
3 すべての人に健康と福祉を 	3. すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	12 つくる責任 つかう責任 	12. つくる責任 つかう責任 持続可能な消費と生産のパターンを確保する
4 質の高い教育をみんなに 	4. 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	13 気候変動に具体的な対策を 	13. 気候変動に具体的な対策を 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
5 ジェンダー平等を実現しよう 	5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	14 海の豊かさを守ろう 	14. 海の豊かさを守ろう 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
6 安全な水とトイレを世界中に 	6. 安全な水とトイレを世界中に すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	15 陸の豊かさを守ろう 	15. 陸の豊かさを守ろう 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	16 平和と公正をすべての人に 	16. 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
8 働きがいも経済成長も 	8. 働きがいも経済成長も すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する	17 パートナリーシップで目標を達成しよう 	17. パートナリーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る		

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

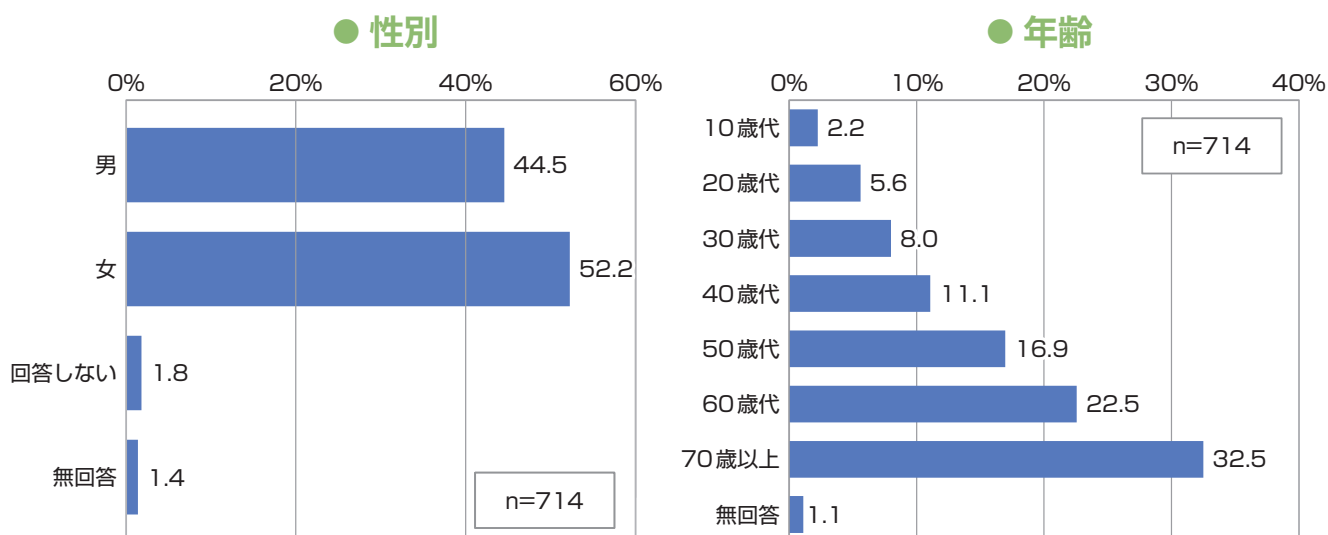
5. 町民ニーズの把握

これからのまちづくりに向けた町民ニーズの把握や、町民からまちづくりへの提案やアイデアをいただくため、町民アンケート調査及び町民ワークショップを実施しました。

町民アンケート実施概要

調査対象	多古町にお住いの16歳以上の方2,000人（無作為抽出）
調査期間	令和6年 8月下旬～9月中旬
実施方法	郵送での配布・回収 （WEBでの回答も可能：調査票にWEB回答用の二次元コードを記載）
回収状況	714票回収（回収率35.7%）

町民アンケート回答者属性



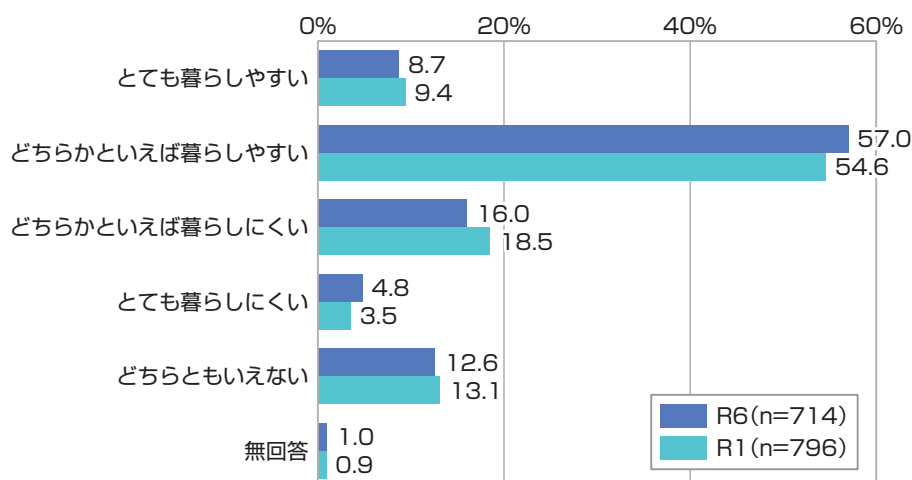
町民ワークショップ実施概要

	1回目	2回目
実施日時	令和6年10月2日(水) 17:30～19:30	令和6年10月9日(水) 17:30～19:30
実施テーマ	総合戦略で示す “数値目標の実現”に向けて	総合計画で示す “まちの将来像の実現”に向けて
参加者	町民アンケート・広報等で応募した町民の方11人と、多古町職員15人、千葉県立多古高等学校生徒9人、千葉県立匝瑳高等学校生徒2人の計37人	

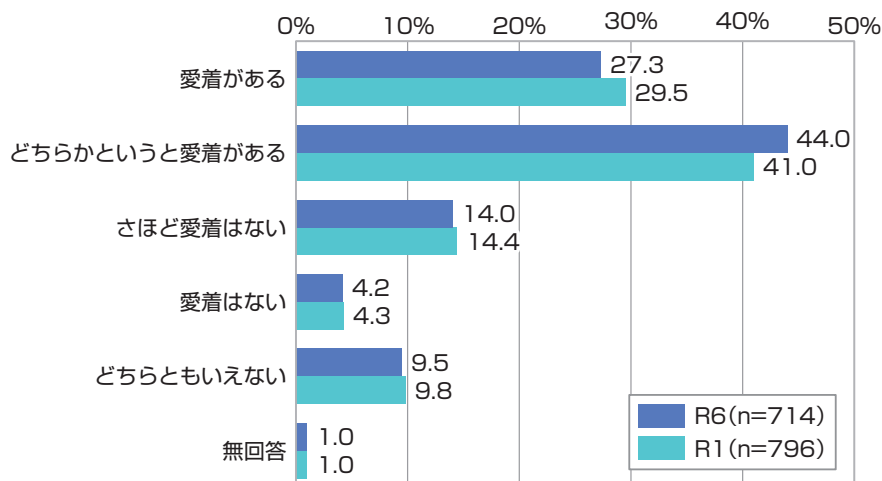


多古町を「暮らしやすい」と感じている方は65.7%。「愛着・魅力」を感じている方は71.3%。将来像の「暮らしつづけたい」の実現に向けて、今後も、暮らしやすく、愛着の感じられるまちであり続けることは重要。

多古町の暮らしやすさ(単数回答)【町民アンケート】



多古町への愛着度、魅力度(単数回答)【町民アンケート】

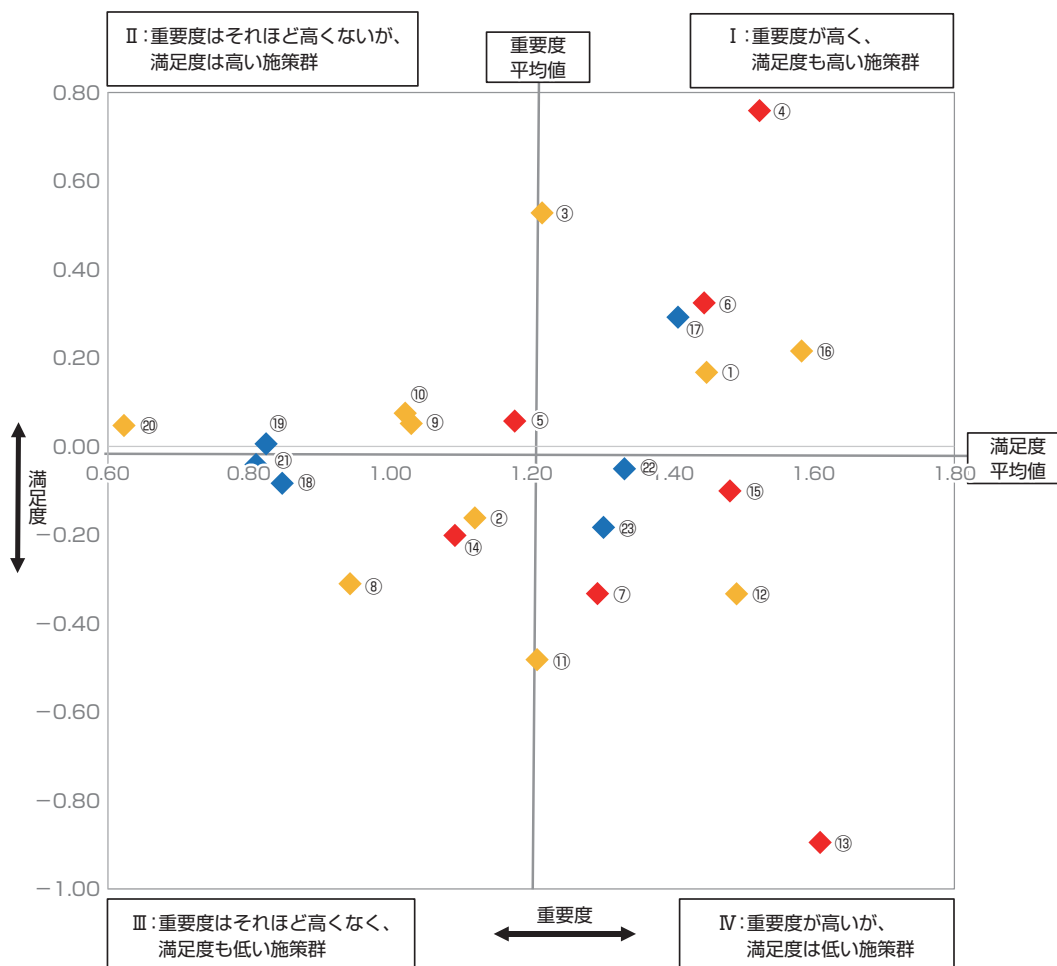


町民ワークショップ



重要度の高い項目のうち、「公共交通の利便性、アクセス向上」は満足度が低く、「子育て支援の充実」に関しては満足度が高い。「防災・防犯」も重要度が高くなっている。

まちづくりの「満足度」「重要度」(単数回答)【町民アンケート】



- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|
| ① 圏央道開通や成田空港機能強化に向けた町の整備や企業誘致の推進 | ⑬ 公共交通の利便性確保、町内外へのアクセス向上 |
| ② 民間事業者を活用した地域の活性化 | ⑭ 公園・緑地の整備、森林の維持による美しい景観の形成 |
| ③ 多古町の知名度・愛着度向上に向けた、町の魅力発信 | ⑮ 上下水道・ごみ処理・騒音対策等の快適な住宅環境の整備 |
| ④ 子育て支援、多古町で子育てしたいと思える環境づくり | ⑯ 災害対策、消防・防犯対策、交通安全対策の推進 |
| ⑤ 地域に密着した福祉の推進、町民同士の支え合いの推進 | ⑰ 魅力ある幼児教育・学校教育の推進 |
| ⑥ 健診や運動による健康づくりの推進、安心できる地域医療体制の充実 | ⑱ 生涯を通じて学べる環境の充実 |
| ⑦ 農業の振興、新規就農者や後継者の育成、流通体制の強化 | ⑲ 郷土愛の醸成やふるさと教育の推進、青少年の健全育成支援 |
| ⑧ 商工業の振興、創業や事業継承に向けた支援 | ⑳ 地域活動やボランティアの推進による協働のまちづくり、男女共同参画の推進 |
| ⑨ 多様な観光・交流プログラムの展開、道の駅の魅力向上 | ㉑ 効率的で適正な行政運営の推進・デジタルの活用 |
| ⑩ 移住・定住支援の推進 | ㉒ 健全で安定的な財政運営の推進 |
| ⑪ 自然と調和した土地利用の推進、遊休地の活用 | ㉓ 町単独では対応が難しい取組に関する他の自治体との協力の推進 |
| ⑫ 安全で快適な通行に向けた、道路や橋梁の整備 | |

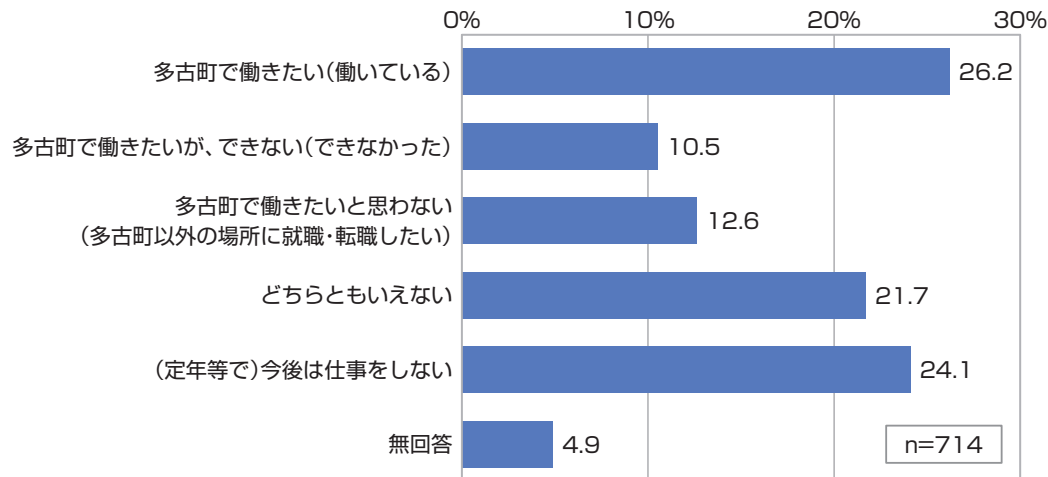
※回答者のうち、「どちらともいえない」以外を回答した方の数によって、グラフのマークを色分け。
(回答者が多い←◆◆◆→回答者が少ない)



「多古町で働きたい」割合が36.7%（「多古町で働きたいが、できない（できなかった）」を含む）。

多古町以外で働きたい方についても、60.0%が多古町に住みながら通勤したいと希望している。就業支援・通勤支援の充実も重要な視点。

多古町での就業希望（単数回答）【町民アンケート】



多古町外で働く場合に、住みたい場所（単数回答）【町民アンケート】

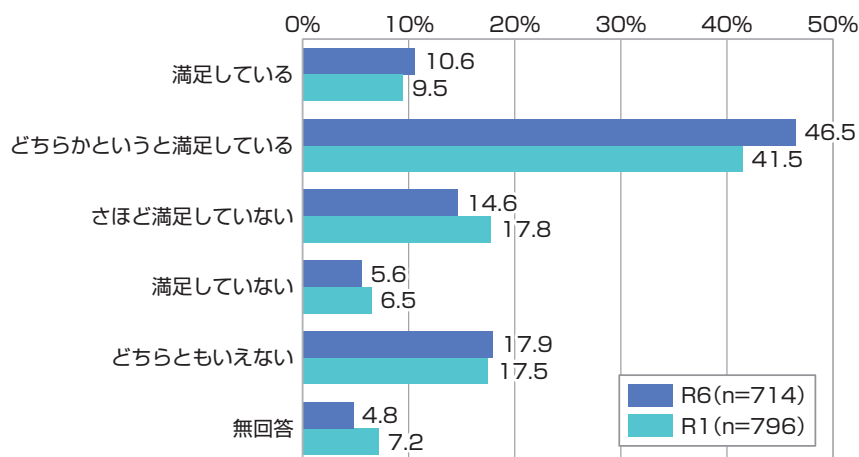
		合計	多古町に住みながら、勤務地まで通勤したい	勤務地の近くや周辺に引っ越したい	わからない	その他	無回答
全体		165 100.0	99 60.0	48 29.1	14 8.5	3 1.8	1 0.6
性別	男性	73 100.0	41 56.2	25 34.2	4 5.5	2 2.7	1 1.4
	女性	87 100.0	55 63.2	23 26.4	9 10.3	0 0.0	0 0.0
年代	10・20歳代	29 100.0	9 31.0	16 55.2	3 10.3	1 3.4	0 0.0
	30・40歳代	60 100.0	38 63.3	17 28.3	5 8.3	0 0.0	0 0.0
	50歳以上	75 100.0	52 69.3	15 20.0	6 8.0	1 1.3	1 1.3

上段：人数
下段：割合

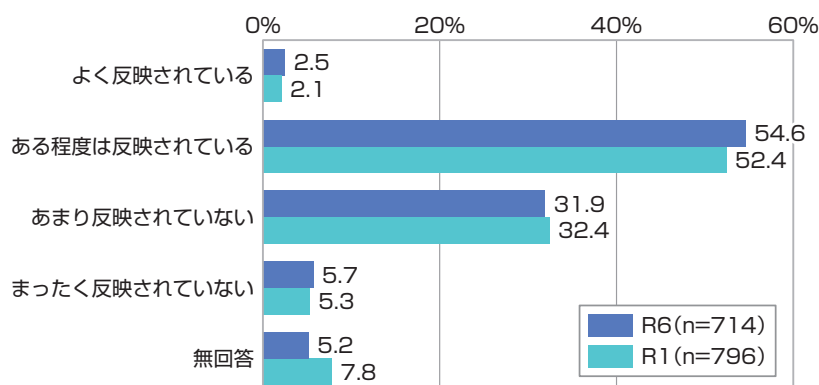


町からの情報発信に満足している・町民の意見が反映されていると感じる方が57.1%。また、まちづくりへ「協力」の気持ちを持つ方が72.7%となっている。今後も町民の声の反映と、町民参画の推進が重要。

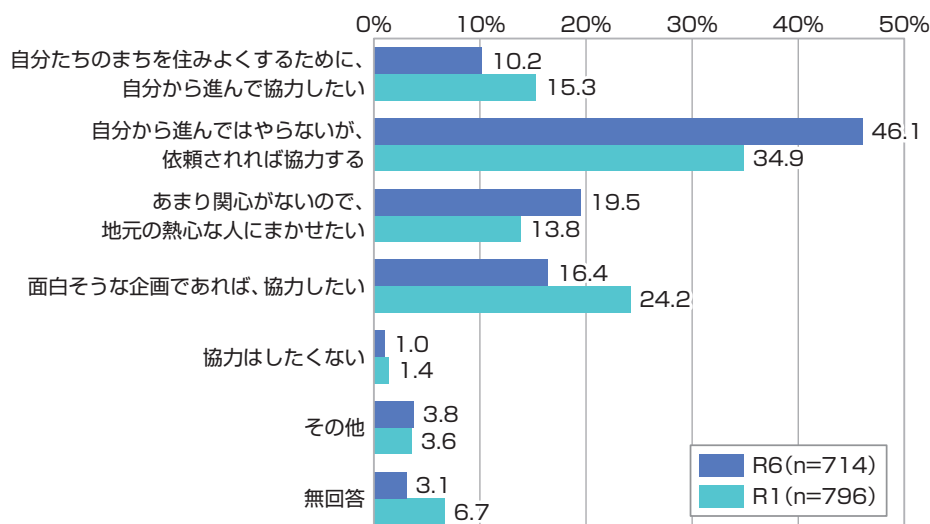
町からの情報発信への満足度(単数回答)【町民アンケート】



町政への町民の意見の反映度(単数回答)【町民アンケート】



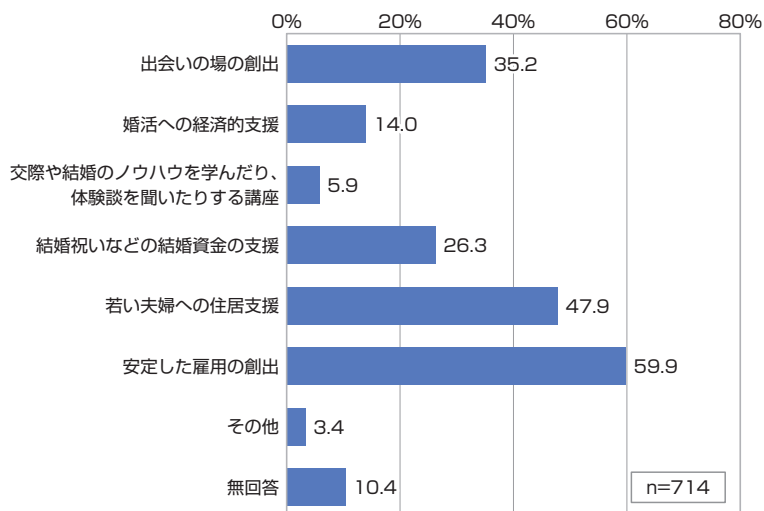
まちづくりへの参加意思・希望(単数回答)【町民アンケート】



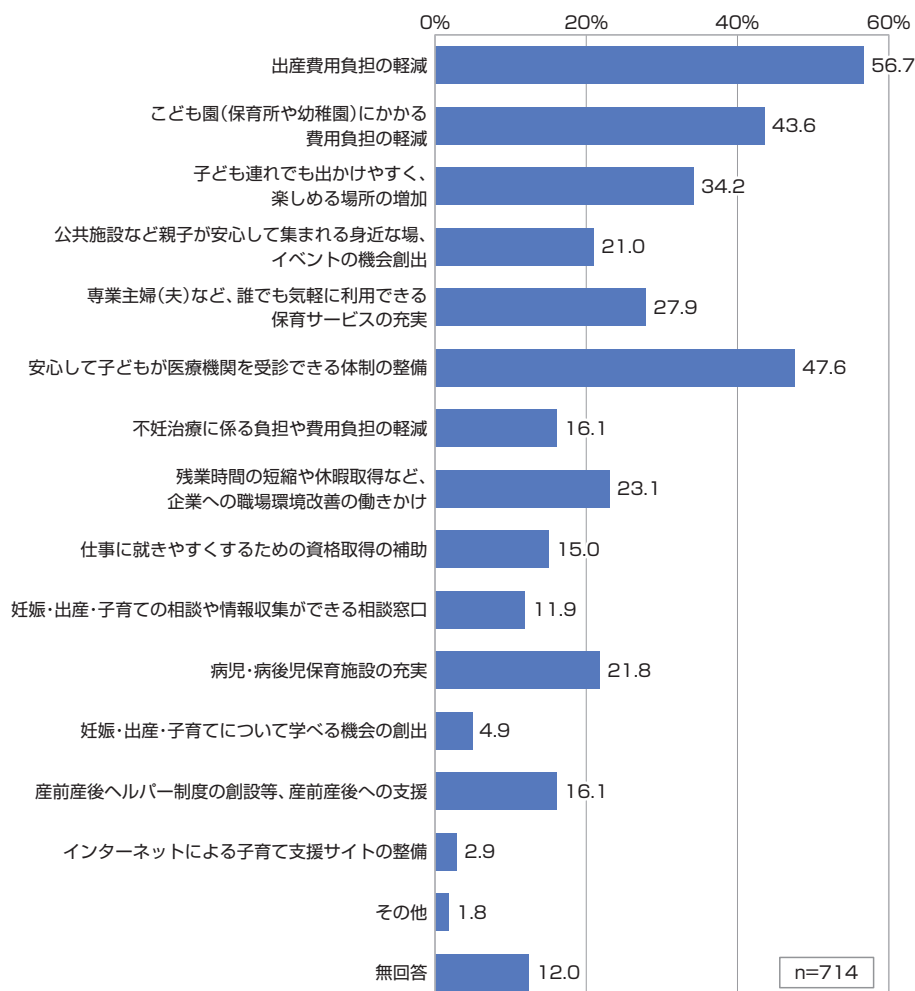


結婚支援として「住居」「雇用」への支援が求められている。また、妊娠から子育てに係る支援としては、出産や保育に係る費用負担の軽減や子どもの医療体制の整備を求める声が多い。

充実を期待する結婚支援策（複数回答）【町民アンケート】



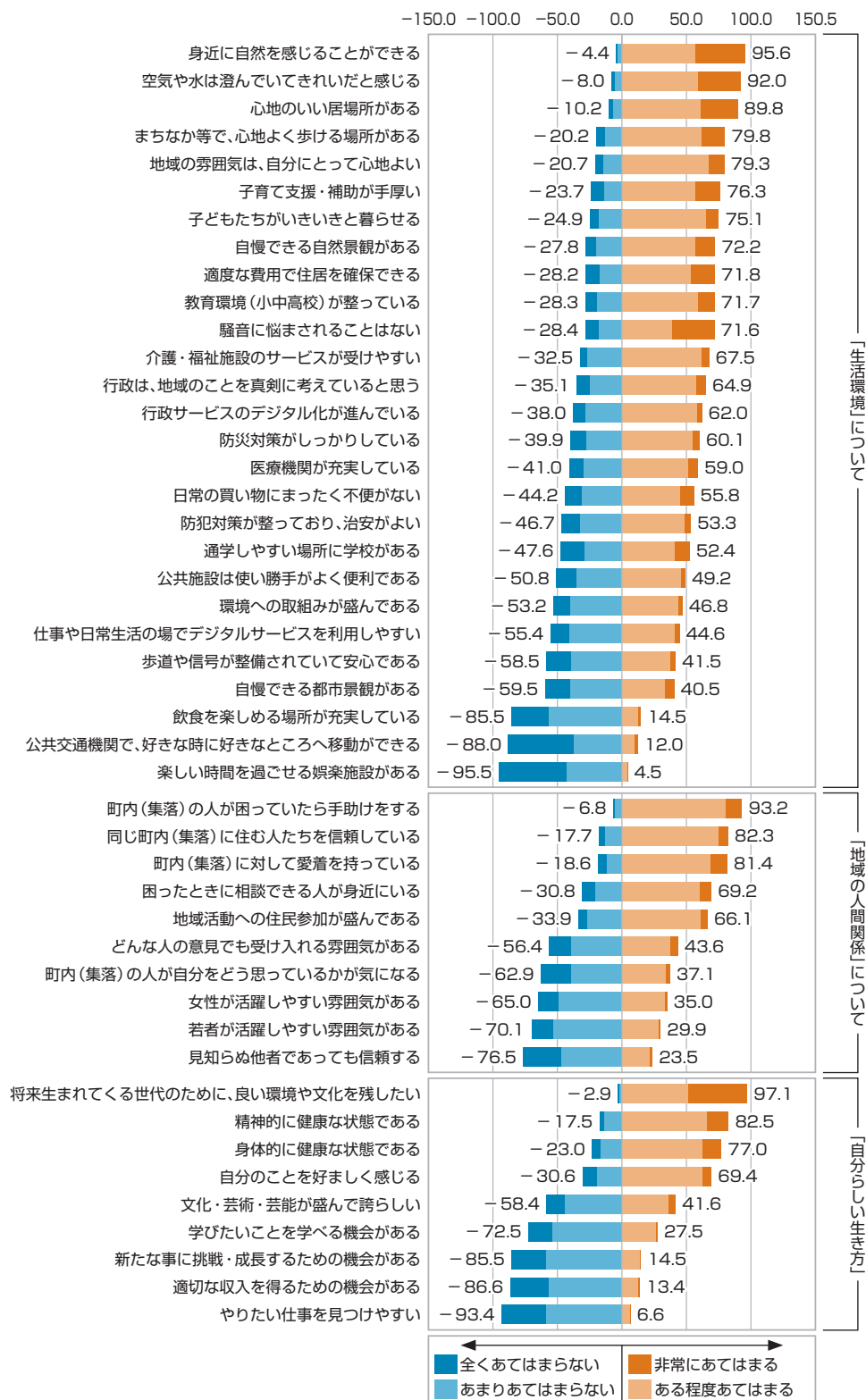
充実を期待する妊娠・出産・子育てへの支援策（複数回答）【町民アンケート】





町全体の幸福度（10点満点）は6.34点で上昇傾向。しかし、「娯楽施設がある」「やりたい仕事を見つけやすい」「公共交通機関で移動できる」「適切な収入を得るための機会がある」「飲食をする場所が充実している」「挑戦・成長するための機会がある」について、低い評価。

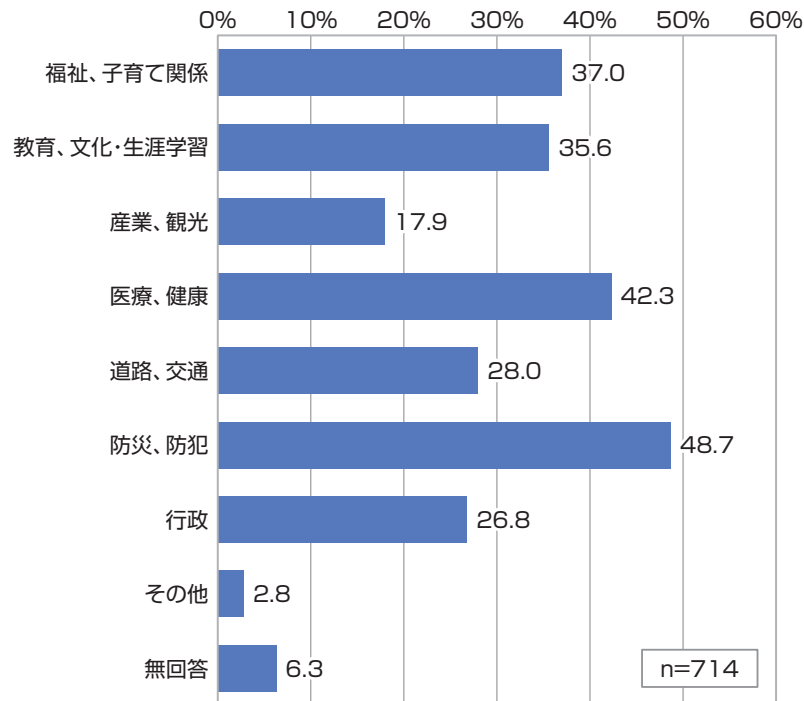
多古町の幸福度・地域満足度に関する状況（単数回答）【町民アンケート】



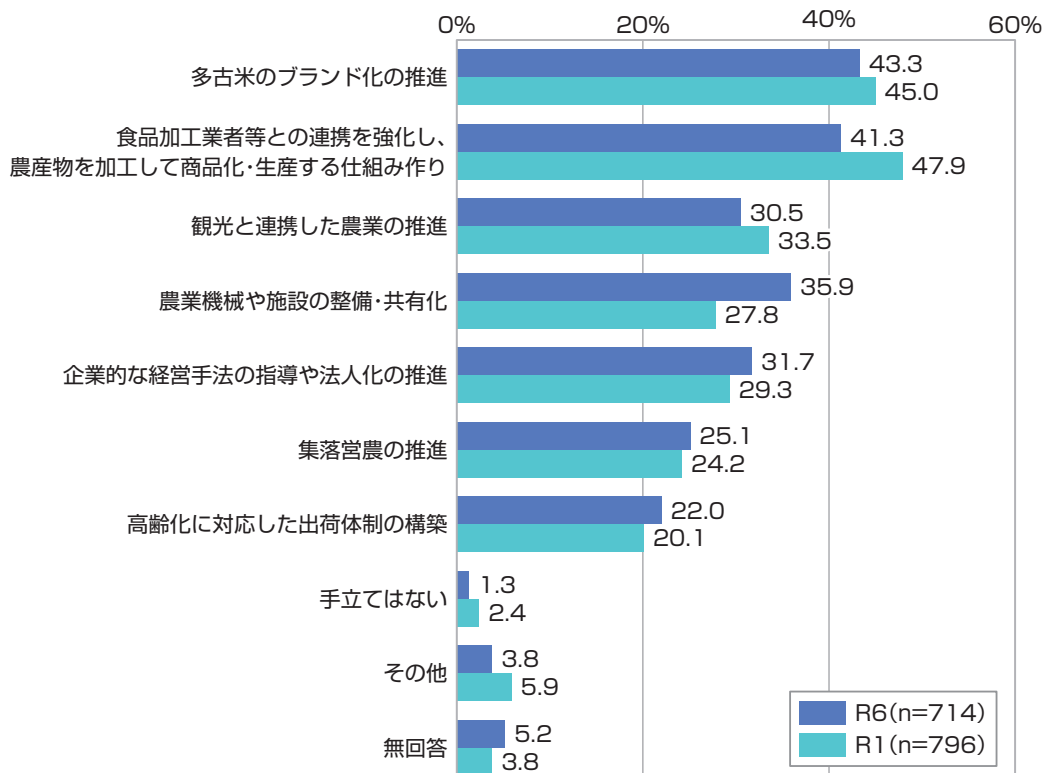


防災・防犯分野へのICT活用が求められている。また、多古町の基幹産業である農業を元気にしていくためには、多古米のブランド化や6次産業化が重要と考えられている。町民の声を活かしたまちづくりを今後も進めていくことが重要。

ICT・DXの推進を求める分野（複数回答）【町民アンケート】



多古町の農業を元気にしていくための方策（複数回答）【町民アンケート】



町民が考える「町の施策の推進」や「将来像の実現」に向けた取組 【町民ワークショップ】

外国人住民の増加	
● 言語・言葉の壁を無くす ● 外国人の雇用促進・住宅提供 ● 外国人が暮らしやすいまちづくり ● 異文化交流イベントの実施 ● 外国人の暮らしを実際に体験してみて理解を深める	● 外国語表記の増加 ● ごみ分別の説明の多言語化 ● 外国人が地域の草刈り等に参加 ● 異文化相談センターの拡充 ● 学校での英語教育の推進 ● 宗教等に配慮した飲食店を出す
外国人観光客の増加	
● 言語対応の充実 ● 交通の利便性の向上 ● 外国人のPRの強化 ● 宿泊施設の増加 ● 観光資源の増加 ● SNSの活用	● 日本独自の体験を提供する ● 観光客向けの農業体験 →高校で実施すると学生ともふれあえる ● ジャパニーズフードフェスの開催 ● 色々な場所で使えるクーポンの発行 ● 古民家リノベーション賃貸
高齢化の進行	少子化の進行
● デマンドタクシーの拡充 ● 若い世代と交流できる施設を増やす →介護施設を併設し、交流で元気を ● 農業などの後継者育成 →現役の方が技術を伝授、体験イベントなど ● 高齢者主体のイベントの実施	● 若い世代が交流できる施設やイベント実施 ● 子育てや教育に対する助成 ● 町民同士が子育てできる場所の増加 ● 若い世代が住みやすい住環境を整える ● 保育士の不足に対応する・夜間保育の充実 ● 空港で働く若い人への住宅手当
東京一極集中への対策	デジタル・DX化
● 施設の拡充 ● インフラの拡充 ● おしゃれなカフェ・おしゃれな施設 ● 夜も楽しめる施設・自然を活かしたモール ● バスの本数などを増やす ● 町の道に街灯を増やす	● 教育分野でのICTの拡充 ● 電子申請などのオンラインの拡充 ● デジタルディバイドの解消 ● スイッチ1つでタクシーなどが来てくれる ● 安否確認のデジタル化 ● オンライン診察・オンライン処方箋の拡充
成田空港の機能強化	その他
● 空港直通の交通網を作る ● 空港シャトルバスの他に新交通システムを作る ● 企業誘致に積極的に取り組む ● 新しい名産品があると良い ● 積極的な公共交通の活用	● お米スイーツ・サツマイモスイーツの開発 ● お試し移住の推進 ● 多国語を学ぶイベントを地区で提案 ● 電車が欲しい ● 大学を創る ● 移動自治体→トラックに診療機能など

団体・企業が考える多古町で「今後取り組むべきこと」 【団体・企業ヒアリング】

観光の強化・推進	人を集めるための働く場所・住む場所の確保
● 観光スポットづくり、観光農園の設置 ● 観光客誘致、インバウンド誘致 ● プロスポーツなどの誘致 ● 外部参加型のお祭りやイベントの実施 ● 滞在時間を延ばす工夫	● 人が多く集まる商業施設の開拓 ● 生活関連インフラの充実 ● 企業誘致と住宅開発等 ● 空き家増加への対策
福祉の充実、教育の充実	交通利便性の向上
● 高齢者世帯への生活援助 ● 子育てにやさしいまちづくり ● 教育の進んだまちに（大学、研究部門企業などの教養誘致）	● 近隣への交通結節点の設置、空港への交通アクセス向上 ● 通勤を考慮した公共交通機関の充実 ● 収益を見込んだ路線・高速バスの運行
町の魅力増進・発信	連携推進
● 多古米ブランドの再定義化 ● 観光PR多古町の魅力発信 ● ふるさと納税の更なる周知	● 住民にスポットをあてた地域づくり・協働 ● 企業や関係自治体と連携し、空港を中心としたエアポートシティを創りあげる ● 観光としての地域連携
その他	
● 様々な取組が実施されているので、現在ある取組をブラッシュアップしていくことも大切	

高校が考える「高校生や卒業生に対して必要な支援」 【高校ヒアリング】

就職を希望する高校生へ必要な支援
● 多古町内の企業の説明会や見学会の実施 ● 職フェア（地元企業説明会）の充実 ● 企業が多古町にあること、スタートアップ企業への援助・支援を継続すること ● 生活費の補助（3年間など定着するまでの補助）
進学・就職で多古町を出た卒業生が戻ってくるために必要な支援
● 車を所持しなくても移動できるように（1～2キロ圏内に商業施設） ● 家賃補助 ● 家族や子育てへの支援やイベントの充実
今後のまちづくりへの意見やアイデア
● 路線バスの減便の抑止 ● 多古町に来やすい、出かけやすい交通網の整備

6. まちづくりへの課題や期待と関連する方向性

各種データや町民ニーズからみる課題等を、施策の大綱別にまとめると以下ようになります。課題解決や期待への対応を図るため、今後も各種政策の推進を図ります。

圏央道・空港・シティプロモーション

- 空港が所在している強みを活かしたまちづくりが求められている
- まちづくりの方向性として「空港と共存共栄するまち」を求める方が45%と約半数
- 企業誘致の推進を図り、働く場所の創出につなげる意見があがっている
- 高校生の就職支援として「町内に企業があること」という意見があがっている
- 多古町の良さをPRして周知・発信することが重要

[42ページ～45ページ]

空港と共生・共栄する まちづくり

新たな企業の進出と雇用の場の創出や、民間事業者等が参入しやすい地域づくりを目指した取組を進めます。また、各種媒体を活用し、より積極的な情報発信を図ります。

子育て・福祉・医療

- 少子高齢化の進行が続いている
- 「医療や福祉が充実した住民にやさしいまち」が求める生活環境としてトップ
- 「多古町で子育てしたいと思える環境づくり」について満足度・重要度ともに高い
- 高齢者への援助や、子育てにやさしいまちづくりが求められており、Uターンにも福祉面の充実が重要という意見がある

[46ページ～53ページ]

共に支え合う、 みんなにやさしいまちづくり

切れ目ない子育て支援や、各種福祉サービスの充実を図りつつ、町民同士の支え合い・助け合いを促進します。地域医療体制の充実を図るとともに、医療費助成制度等を継続し、子育て世代の経済的支援を図ります。

産業振興・交流

- 第1次産業の就業者数が減少している
- 「農業が発展した、自然の恵みにあふれるまち」が求めるまちの産業としてトップ
- 「楽しい時間を過ごせる娯楽がある」「飲食を楽しめる場所が充実している」と感じる方の割合が低い
- 多古町の周知や魅力向上に取り組み、移住促進に向けた取組を進めることが重要
- 「やりたい仕事を見つけやすい」「適切な収入を得る機会がある」と感じる方の割合が低い
- 就職を希望する高校生に対し、町内の働く場の提供やスタートアップに向けた支援が求められている

[54ページ～63ページ]

活気と賑わいのある 自慢できるまちづくり

デジタル技術等も取り入れつつ、基幹産業である農業を核とした、地域に活気と賑わいをもたらす新しい産業振興を図るため、農業、商工業、そして観光・交流の促進を進めます。

意見の出典元を各種データ・町民アンケート・ワークショップ・ヒアリングで色分け

環境・都市基盤整備・安全

- 「住宅・公共交通などが整備された通勤通学しやすいまち」が求めるまちづくりの方向性としてトップ
- 「暮らしの利便性に配慮した公共交通体系の確保」は重要度が高いが、満足度が低い
- 「公共交通機関で自由に移動できる」と感じる方の割合が低い
- 若い世代のリターン支援として、車を所持しなくても移動できるまちづくりが求められている
- 若い世代が住みやすい住環境や空港で働く若い人への住宅支援が求められている
- 高校卒業後の定着支援として、住宅支援や家賃補助といった居住に関する支援が必要という声がある
- デジタルを活用した「防災・防犯」の推進が求められている

[64ページ～78ページ]

自然と調和した安全・安心なまちづくり

町の発展につながる土地利用を推進しつつ、多古町らしい景観の保全、憩いの空間づくりに向けた取組を進めます。また、公共交通等の交通利便性の向上に向けた取組の推進や、誰もが安全で快適に生活できる住宅の確保に向けた取組を推進します。防災・防犯等を推進し、安全・安心なまちづくりを進めます。

教育・文化・人づくり

- 「教育・子育て環境が充実し、子どもが豊かに育つまち」が求める生活環境として10・20歳代と30・40歳代でトップ
- 教育に係る費用負担の増加がみられる
- 「教育の進んだまち」を求める声があがっている
- 空港に近いまちとして、グローバルな教育の視点も重要
- 教育分野のデジタル推進が求められている

[80ページ～85ページ]

学びと生きる力を育むまちづくり

“学びと生きる力を育む教育の町「多古」”の実現を目指し、グローバル教育やICTを活用した学びを取り入れた教育の振興を図ります。生涯学習や文化・芸術活動への参加促進を図るとともに、郷土愛の醸成に向けても取り組みます。

町民参加・生きがい・行財政

- 町からの情報発信に「満足している」割合、町民の声が町政に「反映されていると思う」割合が増加している
- 町民参画には「依頼されれば協力する」という方が増加している
- デジタル推進に向けて、町民からのフィードバックを行うアイデアがあがっている
- 若い世代の交流する場を求める声がある
- 住民にスポットをあてた地域づくりや協働の視点が求められている
- 外国人人口の増加がみられる
- 外国人住民との交流や関わりを持ち、文化や習慣を互いに理解し、歩み寄ることが重要

[86ページ～94ページ]

みんなが主役のまちづくり

効率的な行政運営、健全な財政運営を進めるとともに、町政に関する情報提供、デジタルやICTを活用した情報発信の充実を図ります。町民と行政との協働・共創体制の構築に向けて、誰もが参加できる町民参画の推進に取り組みます。

意見の出典元を各種データ・町民アンケート・ワークショップ・ヒアリングで色分け